

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年10月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000076		
法人名	医療法人わたなべ内科クリニック		
事業所名	グループホーム桜の木	ユニット名	
所在地	福岡県柳川市矢加部230番地の4		
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果市町村受理日	平成24年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階
訪問調査日	平成24年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のんびり」「その人らしく」「おだやかに」をモットーとし、柳川の自然豊かな環境の中で、入居様がその有する能力に応じ、その人らしく暮らすために職員一同が、きめ細やかな良質のケアを行うよう努めています。家庭的な生活の中から安心感・信頼感が生まれ認知症が緩和されるようお手伝い致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

22年10月に開設した“桜の木”は開設時からの職員も多く、常に前向きな管理者を中心に職員同士の結束を強めてこられ、地道な努力は実を結び始めている。運営推進会議で“地域の歴史”を教えて頂き、地元の日吉神社のお祭りの時に職員も一緒に地域を回る事ができた。念願の北矢加部地区の子供会や幼稚園児との交流もでき、漫画が得意な職員がウエルカムボードを作成し、子供達の喜ぶ笑顔を見る事ができた。地域の方々の協力で感謝の気持ちでいっぱい1年であった。24年4月には家族との親睦会も行われ、職員手作りの焼きそばや箸巻きなどの美味しい料理が準備され、ホームの“桜の木”の下で皆さんとひと時を楽しまれた。家族の協力も増えており、種や苗を持参して下さい、ご利用者と一緒に畑仕事や花の水やりをして下さっている。畑仕事や料理が得意な職員も多く、収穫した美味しい野菜は日々の食材として使われている。ホーム周辺はのどかな環境で、朝から畑の野菜を収穫するご利用者や、登校する子供たちに笑顔で手を振るご利用者(見守り隊)の姿は日常で、今日も“のんびりと、その人らしく、おだやかに”桜の木の生活が続けられている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、夕の申し送り時に唱和し理念を念頭において仕事に取り組んでいる。また、理念の意味についても、スタッフ全体会議にて理解を深め共有を図っている。	「のんびりと、その人らしく、おだやかに」と言う理念は職員全員で作成され、「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで普通に生活することを通して～、自分らしさを取り戻す」ことが“目的”に明記されている。地域密着の視点で外出支援を行い、誕生日会では好きな食事をリクエストして頂くなど、生きがいある生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回のお宮清掃や見守り隊は、昨年より継続している。お祭り、文化祭、運動会等見学も行っている。	子供相撲大会や地域の花植え、地区の総会にも参加している。ご利用者と一緒に小中学生の登下校の見守りも続けられ、幼稚園児や子供会の慰問の時には一緒に玉入れも楽しまれた。運営推進会議の参加者のお孫さん(男の子)が毎月お花を持って来て下さるようになり、ご利用者の楽しみになっている。	北矢加部地区の総会でホームの紹介をしたり、ホームの夏祭りには地域の方を招待している。今後も引き続き、外でお茶ができる環境を作ったり、畑の野菜を食べて頂く等、近隣の方々が気軽に立ち寄ってもらえる方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や訪問時に「認知症について」話をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	子供会の訪問やGHでのケアの状況を報告に取り組んでいる。	前回の外部評価以降、地域の方から“地域の歴史”等を教えて頂き、日吉神社のお祭り(一万度)の時に職員も一緒に地域を回るきっかけを頂いた。北矢加部地区の子供会との交流も行うことができ、地域に根差した取り組みに繋げてきている。「温泉を掘ってみては？」などのアイデアもあり、毎回、有意義な会議になっている。	土曜日開催もしてみたが、家族の参加が減ってきている。今後も家族との面談やアンケートなどを行うと共に、病氣(栄養・リハビリなど)や権利擁護の勉強会などを取り入れるなど、参加しやすい方法の検討をしていく予定にしている。(外部評価項目6・7・13共通)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険書類の申請時や問い合わせ時にGHの実情を話す機会をもっている。	開設前から様々な相談を行う中で、市の方は親身に対応して下さっている。主に介護支援専門員の方がホーム便りも持参して定期的に市を訪問し、認知症型通所介護共用型の開設に関するアドバイスも頂いている。市からのお誘いで、認知症の方が行方不明になった時の事業者間のネットワーク作りにも参加している。	今後も引き続き、市役所等が主催する研修会に積極的に参加していくと共に、他のグループホームとも相談しながら、ホーム同士の協力関係も築いていきたいと考えられている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH内において研修会や勉強会を開催し、啓発に努めている。	玄関のドアはボタンを押せば開くシステムであり、ご利用者も早朝から、玄関横の畑にトマト等の収穫に行かれています。少し不安になられる方は、職員が個別に話を聞いており、帰宅願望が強い方は自宅にお連れすると共に、外出支援にも取り組まれている。馴れ合いの言葉になる時はお互いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH内において研修会や勉強会を開催し啓発に努めている。また、心理的虐待にも充分注意を払っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や研修会で権利擁護の勉強会を行っており、入居者や家族に情報の提供をしている。	管理者、チーフ(ケアマネ)が中心となり、ホーム内で権利擁護の勉強会をしている。ホームにパンフレットも置いており、入居時に制度の説明を行い、制度を利用している方もおられる。家族からの相談時は更に説明をさせて頂いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、丁寧に説明している。契約時にはケアに対する考えや取り組み、GHの対応可能な範囲について説明を行い納得が得られるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加や2ヶ月に1回の入居者状況報告書を作成したり、面会時のなかで要望や意見等を伺う機会を確保している。	「心配な事はないですか」と職員から家族に尋ねている。家族からは畑のアドバイスを頂いたり、苗や種を頂ける関係も作られている。「夏祭りの外灯を明るくしては」などの意見も頂き、次回のお祭りで意見を反映していく予定にしている。4月には親睦会も行われ、今後も面談等をしていく予定にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のスタッフ会議や業務内のカンファレンスにて意見調整の機会を設けている。 ・月1回のリーダー会議を実施している。	開設2年が経過し、チームワークも良くなっている。委員会活動も行い、それぞれの役割を担ってもらっている。伝達事項は職員全員に伝わるように記録を残し、報連相の徹底もできてきている。研修会のテーマも職員で検討し、誕生日会やバスハイク等の企画、立案、実行、反省を職員中心に行っている。	今後も引き続き、職員が意見を出しやすい会議にしていきたい予定である。行事案などを紙に書いて頂いているが、議題を事前に伝え、アイデアを付箋に記入し、会議で持ち寄るなど、より多くの意見を出せる方法を検討していく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・各スタッフの能力や個性に対応した業務を遂行してもらっている。 ・年2回、自己評価を行い個人面談を実施している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	・年齢経験等関係なく、介護に対する思いや希望を聞き、理念と照らし合わせて、適した人材かどうか判断している。	採用面接は、事務長、管理者、チーフで行われ、お人柄(優しさ、穏やかさ等)を大切にされている。開設当初からの職員も多く、職員の得意な分野(料理、畑仕事、文章表現、漫画等)を發揮して頂いている。優しく、明るい職員が多く、職員の長所を引き出す取り組みを続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ会議の中で勉強会の一環として管理者による入居者への接遇について研修する。時間を作っている。	毎月の会議の時には、「ご利用者への言葉かけには敬いの気持ちを持って…」など、院長や事務長の言葉を管理者が職員に伝えている。管理者も日々の業務の中で、「人生の先輩として関わり、最後まで楽しく過ごせるように。認知症の勉強も続けていくこと」を職員に伝え、日々実践に繋げている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加者（内部、外部研修）より全体会議において発表してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会やお互いに時間のある時に訪問したり、電話による問い合わせ等で交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時や入居前に必ずアセスメントをとり情報の共有化を図っている。またカンファランスの実施をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談にて不安、要望等を聞き、GH見学をして頂き、納得した上で意思を確認しサービス導入につなげている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関する相談や施設や病院自宅等を訪問した際に情報収集を実施しニーズ把握を行う。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の個々の能力に応じ、可能な限り役割をもってもらい共に支えあい共同生活が送れるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況報告（面会、電話）や2ヶ月に1回の状況報告書（郵送）を行い、面会時に居室にて入居者と家族が過ごせるよう時間の確保を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室やレストランへの外出を支援し、関係継続に努めている。	馴染みの場所や馴染みの人などをセンター方式に記載し、年賀状を書く事が困難な方は職員が代筆している。2月に1回、お寺の納骨堂に職員と一緒にいき、亡くなられた奥様のお参りをされる方や、馴染みのレストランで好きなカレーを楽しまれる方もおられる。近所の方やお友達が来て下さる方も増えてきている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・孤立させないよう間をとりもち、入居者同士の関わり合いがもてるよう支援している。 ・のんびりとおだやかに過ごせるようにソファや椅子、机の配置には気を配っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・別の施設へ転居された方については訪問し関係を継続している。 ・重度化による退居がほとんどの為Faと会った時などは声を掛け会話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に沿えるよう努めている。困難な場合には、一番身近なFaへ意向を尋ねている。	ご利用者との信頼関係も深くなっている。「家に帰りたい」と言う思いも聞かれ、家族と一緒に自宅に帰られる方もおられる。お茶会をしながら、柳川の名物や昔のおやつ等を回想して頂き、ご本人の思いを引き出している。意思伝達が難しい方は表情や行動から思いを察するようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に生活歴やサービス利用の経過などの情報は得ている。不足分は随時Faへ確認している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式をアセスメントツールとして使用し、情報収集を行っている。また、心身状態を把握するために毎日のバイタル測定と会話などから、ちょっとした変化や気付きを見逃さないようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との面会時やスタッフ会議(ケアプラン評価)等を通じて、情報収集や評価を実施している。	家族から「カラオケが好きでした」等のお話を伺い、ケアプランに反映させたり、「お手伝いをしたい」と言うご本人の思いを伺い、茶碗拭きや洗たく物たたみをして頂いて。買い物やドライブ、外食等と共に、家族や馴染みの関係もプランに入っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアでスタッフが気付いたことは介護日誌や連絡ノート等を活用しながら、スタッフ間での情報の共有化を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入居者のニーズに対しては型にはめるケアではなく、その時々で柔軟に対応(外出、買い物)する。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、行政の方との交流により地域資源を把握し、入居者に必要なサービスを利用できるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や看護師等への相談を行いながら、状況によっては入居者家族をふくめ、主治医との面会時間を設け希望に沿う支援を行っている。	協力医療機関からの往診(週1回)がある事から、全員、渡邊先生が主治医となっている。ホームに看護師が常勤しており、病院の看護師との連携もある。デイケアのPTや栄養士からもアドバイスを頂き、歯科医の往診もある。往診結果の共有も家族と行われ、眼科等は家族が通院介助し、受診報告も頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務しており、入居者の状況を申し送りやカンファランス等を通じて報告を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず入院先の病院への訪問を行い、入居者の状態把握に努めている。また、退院時はカンファランスに参加し情報収集を実施している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態変化に合わせてその都度、Fa 医師等と情報を共有し、入居者 Faと十分に話し合いながら希望に沿えるように努める	「最後までここで」と言う方もおられる。重度化した場合は医師と連携し、ご利用者と家族の意思を尊重して、できる限りホームで暮らして頂き、最後は病院に転院する形となっている。終末期への意向は「わかりません」という家族も多く、随時、話し合いが続けられている。24時間体制で、ホームの看護師に相談できる体制ができている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会で救急救命の処置 または季節ならではの食中毒、インフルエンザ予防等の啓発を全スタッフに向けて徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の勉強会等により緊急時の職員非常呼集避難誘導等及び避難場所等々周知徹底している。	年2回、防災委員を中心に、ご利用者、消防署職員と共に、昼夜想定で避難訓練を実施している。「災害時連絡一覧表」を作成し、災害時の避難場所の確認も行われている。近くに川もあることから、クリニックの2階に避難する体制が取られている。災害に備え、懐中電灯・ラジオ・非常用食品・缶詰等の備蓄を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言動や職員側の枠にはめた行動をとらない様、配慮を行いケアに努めている。 定期的に接遇の勉強会を行っている。	管理者は、「常にこの日が最後」と言う気持ちを持って楽しく過ごせるように職員に伝えている。優しく穏やかな職員が多く、日々の言動も、ご利用者が不安や混乱に陥るような言葉かけをしないようにしている。守秘義務に関する研修も行われ、申し送りは事務所で言い、個人情報もシレッダーにかけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との関わりの中で、ニーズの把握を介護者が行いニーズ解決の為の選択肢を入居者へ提示し、自己決定を行えるよう支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方とコミュニケーションを図り、その方が何をしたいのかを確かめてから行動している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が更衣する時は、本人が好きな洋服を選択出来るよう助言したり、月1回のビューティケアのボランティアの方に化粧や身だしなみ等をアレンジして頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを把握したり、買い物や調理の準備を手伝うことで食事への興味が湧くように環境作りを実施している。	食事委員会が献立を作成し、法人の栄養士に見て頂いている。パン食(月、水)や麺、丼物の日を決めて変化を持たせているが、個別の要望に応じて、毎朝パン食の方や毎日魚の方もおられる。ホームの畑で新鮮な野菜を収穫し、ご利用者も一緒に下ごしらえをして下さる。旬の料理が提供され、職員も一緒に食べられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの摂取量を記録に取り、食事献立を栄養士が確認している。 ・水分摂取が少ない方には寒天ゼリーを提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助を必要とする入居者には職員がケアを行っている。口腔内の痛みや口臭が頻回にみられる場合は、歯科往診にて対応を図っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の方に合った時間にトイレへの声掛けや誘導を実施し、失禁(尿、便)の減少に努めている。自立支援を促し、おむつを着用しないようにGH全体で意識統一心掛けている。	トイレでの排泄を大切にされている。個別の排泄リズムに応じたトイレ誘導を行い、失禁の減少が見られた方もおられる。羞恥心にも配慮し、声の大きさ等にも気を配っている。パッドの大きさも個別に選定され、ポータブル利用に関しても、ご本人の意思を大切にしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時での水分補給や食物繊維の豊富な料理を提供したり、アクティビティ活動への参加を促し、便秘の予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の入浴したい曜日や時間を尊重し、入浴への対応を行っている。	「1番風呂がいい」と言う方もおられ、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴の準備や着脱、入浴介助等も希望に応じて同姓介助が行われている。体調に応じて2人介助も行われ、浮腫のある方はお風呂でマッサージをしている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、季節に応じて柚子湯も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を考えながら、昼寝の習慣のある方には昼寝をして頂いている。また、個々の入眠パターンに合わせて、眠られる環境づくりをしている。就寝前にホットミルクの提供。空調機による湿度 温度適温設定。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表を作成している。服薬の際はダブルチェックを確認している。また、ひとり一人の薬の説明を綴じ、いつでも見れるようにしている。看護師、薬剤師より薬の説明を受けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握し、カラオケや読書活動または畑への野菜の収穫等の入居者の個性に対応した生活活動を実践している。また、季節ごとに行事を開催している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望に対応し、当日の買い物希望であっても職員間での連携を図り、外出の機会を確保している。また、定期的に季節毎のバスハイクを企画し、車椅子対応の入居者でも気分転換を図れる機会を提供している。	ご利用者の見守り隊が登校する子供たちに笑顔で手を振っている。地域のゴミ拾いも行い、散歩も楽しんでいる。清水山や大木町等の道の駅、筑后市船小屋恋ほたる館などにも出かけ、レストランでの外食やスーパーでの買い物も楽しんでいる。大好きな“れんげの花”を見る前に亡くなられた方もおられ、今後も希望を叶える支援を続けていく予定にしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGHIにて金銭管理を行い、買い物や外食時には入居者へ現金を手渡し、自由に使えるように支援を実施している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人から希望があれば電話をして頂いている。 ・手紙や年賀状を各自に書いて頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花(なければ造花)をリビングや居室に飾っている。 ・オルゴールやクラシックの曲をかけ、落ち着いた雰囲気づくりを心掛けている。	リビングはソファやテーブル席があり、畳の間で気持ち良さそうにお昼寝をされる方や、畳に置いている座椅子に座り、ソファに座っている方とテレビを見ている方もおられる。台所は対面式で、リビングのご利用者との会話を楽しまれたり、リビングから見える田んぼの稲穂や庭の桜の木を眺める事もできる。廊下には写真を貼り、ご利用者や面会者との会話のきっかけになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の会話をさえぎらないようお茶を提供したり、話題を投げかけている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みのある物を持ってきて頂くよう説明し、家具 テレビ 仏壇 写真等を持参されている。	夫婦部屋を利用されている方もおられる。ベッドは木製で心身状況に応じて手すりも付けている。馴染みの品々を持参して頂き、茶碗や箸、湯のみ、コップは日常の中で使われ、家族との写真やアルバム、タンス、テーブル、椅子、時計などは、ご本人の安心できる場所に置かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者で出来る方は畑に花や野菜を植えたりしている。、ホーム前に自動販売機を置き、職員が同行し、入居者の方が好みの飲み物を買われるなどされている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名: グループホーム桜の木

作成日: 平成 24 年 11 月 28 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の方々が気軽に立ち寄ってもらえるよう、介護教室やホームの外にお茶ができるスペースを設ける。	地域の方々が気軽にホームへ足を運んでもらえるようにしていきたい。	・引き続き、夏祭りに地域の方をお誘いする。 ・介護教室の開催やホームの外にお茶ができるスペースの設置。	6 ヶ月
2	4	看護師 薬剤師 栄養士 介護士等の各、専門分野の講習会を運営推進会議でおこない、家族参加率のUPにつなげる。	運営推進会議の家族参加率をあげたい。	看護師 薬剤師 栄養士 介護士等の各、専門分野の講習会を運営推進会議でおこなう。	6 ヶ月
3	11	議題を事前に伝え、アイデアを付箋に記入し、会議で持ち寄るなど、より多くの意見を出せるようにする。	スタッフが意見を出しやすい環境づくりをしたい。	議題を事前に伝えアイデアを付箋に記入し、数多くの意見を出してもらうようにする。	6 ヶ月
4	16	他のグループホームや福祉施設と交流をしていきたい。	他のグループホームや施設と互いに行き来きをし、交流を図っていきたい。	他のグループホームや施設と互いに行き来きをし、交流を図っていく。	6 ヶ月
5	51	日常的な外出支援を積極的におこなっていく。	外出支援を積極的におこない、本人の希望が叶うようにしていく。	御家族も一緒に外出や食事ができる機会を作っていく。	6 ヶ月